

## 鹿児島の動物18

## ハブ(ホンハブ)

動物担当 山田島 崇文

体はスマートで細長く、頭部は大きく、長三角形。日本を代表する毒ヘビであるハブ(ホンハブ)は、奄美諸島、沖縄諸島に分布しています(喜界島、沖永良部島、与論島などには分布していません)。性格は非常にどう猛です。体色は黄褐色の地に暗褐色の不規則な斑紋がありますが、変異が大きく、島によっても異なるといわれています。

ハブはクサリヘビ科の1亜科です。この仲間は眼と鼻の間にピット器官という感覚器を持っています。ピットとは、穴のことで、ここで獲物の発する赤外線をキャッチしています。ハブは、暗闇の中、ピット器官と眼などの組み合わせで獲物を捕まえるのです。

餌となる動物の中で、もっとも大きな割合を占めているのがネズミ類です。中でも、ヒトの移動によって奄美諸島



夜間見かけたハブ

にやってきたと考えられるクマネズミとドブネズミが大半を占めます。これらに対し、もともと島に生息しているトゲネズミやケナガネズミは、あまり捕食されていません。それは、トゲネズミやケナガネズミは、クマネズミなどに比べて、個体数がかかなり少ない上、垂直方向へのジャンプ力に優れ、ハブの攻撃から身をかわしやすいためだといわれています。

昼間は、森の茂みや石垣などの穴などに潜み、主に夜行動しますが、薄暗い日などにも行動します。というのも私が初めて遭遇したのは、雨の降った後の森の中でした。また、木や崖などを登り、樹上に隠れていることもよくあります。

冬眠はせず、一年中活動しますので、季節を問わず、山の中を歩くときは十分注意しましょう。



樹洞に潜むハブ

## 鹿児島の植物23

## 有毒な植物

種子植物の中で有毒なもの代表と言えばやはり「トリカブト」でしょう。植物界最強の毒をもつといわれ、摂取する量によっては薬にもなりますが、量を間違えると死に至ることがあります。鹿児島にトリカブトの自生はありませんが、その仲間をみることができます。霧島や志布志市で見られるものを紹介します。

○ハナカズラ 花期10～11月

日本産では唯一のツル性のトリカブトです。他の植物にからみつき、長さは2mにもなります。林のふちや日当たりのよい草地に生え、霧島山系に見られました。



## トリカブト属

植物担当 大屋 哲

名は、美しい花を咲かせるツル植物ということによります。別名ハナヅル。

○タンナトリカブト 花期10～11月

湿った林内や林のふちに生えます。直立または少し斜めになり、長さは1mに達します。志布志市の山中に生えていました。名は基準産地である韓国の済州島の古名、耽羅(たんな)に由来します。



両種とも個体数・生育地が減少しているので、採集は控えましょう。またくれぐれも食べないように気をつけてください。